

## 授業内容 携帯に文字送信

ソフトバンクモバイルは大学やNPO法人（特定非営利活動法人）と協力し、携帯電話を利用して聴覚障害者が学校で講義を受けられるようにする実験に乗り出した。携帯電話各社は、携帯電話を使って障害者の生活を支援する取り組みを強化しており、ほぼ1人に1台の割合で普及するなか、通話以外へと活用の幅を広げていく方針だ。

ソフトバンクは、CSR（企業の社会的責任）活動として、障害者支援活動をするNPO法人などに携帯を貸し出す支援を2005年から始めている。

今回の実験は、聴覚障害者が学校で講義を受ける際に、その内容を携帯電話に表示させるというもの。講師の講義内容を携



帯電話で聞き取った通訳が聴覚障害者に文字情報として送信する仕組み。07年にNPO法人の「長野サマライズセンター」に携帯を貸し出し、協力を得てシステムを開発。実用化に向けて実証実験する。

専用のそりに乗って競技する「アイススレッジホッケー」選手のインタビューを生中継するNPO法人「STAND」のスタッフ

このシステムの場合、携帯電話の利点を生かし、通訳者が遠隔地にいても対応できるなどの利点がある。今後、米アップル製の高機能携帯「iPhone（アイフォーン）3G」を使い、群馬大学や長野県内の小学校など

で約1年間実験を行う。

ソフトバンクはこのほか、携帯電話のテレビ電話機能を使って障害者スポーツなどの生中継を行っているNPO法人「STAND」にも携帯電話を貸与。サッカーやホッケーの試合、インタビューの中継に活用されている。同法人は障害者スポーツを振興するとともに、「障害で動けない人も、生中継や応援サイトを通して友達作りをしてほしい」（伊藤数子副代表理事）と呼びかける。

こうした取り組みでは、NTTドコモが視覚障害者向けに、「音声図書」を携帯で提供するサービスの開発に協力。KDDIも車いす利用者向けに段差や道幅などを考慮したルート情報を提供する実験を行ったことがあり、携帯電話を障害者支援にどう生かすかの検討を重ねている。